

4. 試合中の選手心得

- (1) 「理由なくしてプレーを中断しない」というルールがあるので、プレーの続行を妨げないようにすること。
- (2) ベンチコーチによるコーチはエンドチェンジの時に、その時間内(90秒以内)だけ許可され、それ以外の試合中にコーチを受けることは厳禁である。ただし、ベンチコーチには、登録された監督、あるいは選手が1名のみ各試合に入ることができる。
- (3) 試合中に負傷した場合、1回に限り3分間、治療のためにプレーの中断を要求できるが、痙攣等の自然的体力消耗によるプレーの中断はできないので、その場合、プレーヤーはすすんで棄権を申し出ること。
- (4) 相手のミスに対して大喜びしたり、牽制するような声を出さないこと。相手のファインプレーに敬意を表すぐらいの余裕を持つこと。
- (5) 自分のプレーにあくまで謙虚であること。パートナーのファインプレーを称賛し、そのミスについては意に介さない寛容の態度を失わないこと。
- (6) ダブルスの試合において、パートナー同志の打ち合わせは短く済ませ、プレーの中断にならないようにすること。
- (7) ボールを相手に送るときは、相手をよく見て受け取りやすくすること。フォールト、アウトが明らかなボールは軽くボールパーソンに送るようにする。明らかなフォールトのボールはネットを越して相手方に返球しないこと。
- (8) 試合中はコートの後方や横側を歩かないこと。
- (9) 試合中はコートの中には、プレーヤーおよびベンチコーチ(登録された監督または選手1名)とボールパーソン(各校1名)以外は入らないこと。ボールパーソンは競技用ユニフォーム又は体操服で行い、ジャッジや応援をしてはならない。
- (10) 試合中は、ラリー中いかんにかかわらず、声を出しての応援はできない。
- (11) その他、相手に不快な気持ちを起こさせないように心がけること。